

2年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”をもとに、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児達の遊びや生活を通じた教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の五点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、考える力やコミュニケーション力を養い、仲間関係を豊かにする教育を実践する。
 - (4) キンダーカウンセラーとの連携を図り、支援を要する園児への取り組みを継続し、保護者の相談等への対応を充実する。
 - (5) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努め、教員自らが指導計画の充実及び領域研究に主体的に取り組みながら、自己啓発を進める。
- ・保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的な生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで、高校生や大人と園児の交流を深め、園児の生活の幅を広げながら園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせ、幼稚園教育要領の実施に関する具体的方法として「写真で見る教育課程編成」を実践した。また、ICTも取り入れ、教育に関する情報の共有に努めた。 教職員が幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成に向け、継続して取り組んでいく。
建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。	園児達の実態を踏まえ、学びや育ちを保證できるように各学年の担当教員が意見交換を行いながら、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。

	<p>また、ICTを活用した教育に関して検討を行い、園児の視覚に訴える教育の充実を図った。</p> <p>文字ではなく視覚に訴えることは、各教員の資質向上にもつながるため、引き続き「写真で見る教育課程」「ICTを活用した教育」を取り入れ、教育課程の再編成と指導計画の充実を図る。</p>
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。	<p>オンラインでの研修も含め外部研修等へ積極的に参加し、研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、日々の保育の参考となる情報共有を推進した。</p> <p>教職員間で園内研修や情報交換を積極的に実施し、特に、支援を要する園児についての情報は全教職員間で共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った対応ができるよう心がけた。</p>
園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、子育てサロンや保護者会機関紙「Smile」の発行など中止したものもあるが、同感染症の感染拡大防止対策を講じながら、保護者との懇談、参観会などを開催し、園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。</p> <p>園児の園生活や行事の様子など、個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトを利用して情報発信を行った。また、インスタグラムを開設し、新たな媒体による情報発信にも努めた。</p> <p>「れんらくアプリ」を活用し、保護者への連絡を迅速且つ効率的に行うとともに、同システムにより通園バスの位置をリアルタイムで発信し、通園バス利用者のバス停での待ち時間の短縮を図った。</p>
安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。</p> <p>園舎内外の補修・改善も行った。</p> <p>通園バスのドライブレコーダーにより、バス運行の安全性の向上を図った。</p>
地域・系列校との連携を進める。	<p>地域との連携を図るための諸行事のうち夕涼み会や敬老会などは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。</p> <p>系列校との連携では、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じて、大阪商業大学高等学校の学生による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施し、園児と学生の交流を行った。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により臨時休園の措置も行ったが、教育再開後は、本園独自で策定した同感染症の感染防止対策マニュアルや国等のガイドラインなどに対応し、感染者を出すことなく教育が実践できた。

- ・建学の理念を意識した質の高い教育を日々の園生活や遊びをもとに実践し、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を生き物の飼育、野菜の栽培などのさまざまな体験を通して育てた。特に、三密を避けながら、園児同士の関わりが持てるように、「わくわくデー」等の新しい行事を設けた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、教育や行事の内容に変更等が生じたが、園児を中心に置き、園児の主体性を育む教育を推進できるよう工夫し、園児自らが行動して達成感を味わえる教育の実践を心がけた。また、距離を保ちながら、「ヒト」との関わりを意識し、コミュニケーション力や仲間意識の涵養を図るため、園児が自らの考えや思いを伝え、年齢に応じた話し合いができるようにした。
- ・幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、教員間の情報共有にも努め、園児一人一人を見つめる教育を実践した。
- ・火災、地震、不審者の三度の避難訓練を行い、日々の生活において危険回避する力を発揮し、「自分の命は自分で守る」ことができるよう指導した。
- ・文庫を活用して、園児が多く絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力やイメージを広げる想像力を養うとともに、豊かなこころの育成に努めた。
- ・オンライン形式の研修も含め、外部の研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、情報共有を図った。
- ・SNSを活用した情報発信にも取り組み、保護者及び一般の方へ教育内容の周知を図った。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者との建設的なコミュニケーションのあり方の検討	<p>保護者が期待する幼稚園像を保護者懇談会や参観及び担任等を通して把握し、求められる幼稚園の姿を確認したうえで、建学の理念に基づく教育を展開する。</p> <p>公式WE Bサイトやインスタグラムを用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者との連携強化を図る。</p> <p>定期的な参観により日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設けるとともに、父親など男性が参加できる行事についても定着を図る。</p>
教育力向上へ向けた取り組み	<p>園内研修の強化と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学課、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）へ積極的に参加することで、教員一人一人の教育力向上につなげていく。</p> <p>各教員が自己研鑽に取り組めるよう、働き方改革も踏まえながら、在園時間の使い方等の見直しを継続して検討する。</p> <p>各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックし、個人の問題点を幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かしていく。</p>
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	<p>安全管理マニュアルは、状況に即して更新する。</p> <p>学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。</p> <p>引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施及び防犯意識の向上を図るとともに、消防署との連携による防災訓練等を</p>

	<p>検討する。</p> <p>法人本部危機管理担当及び大学警備員とも継続して連携しながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有を行う。</p>
特別支援教育の充実	<p>支援を要する園児へのアプローチについては、専門家の意見や助言等を取り入れて実践に結びつける必要があるため、引き続き、キンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。</p> <p>引き続き、積極的に外部研修会に参加し、研修内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。</p> <p>保護者と連携して、園児一人一人に最適な支援が行えるよう、個人カリキュラムを作成して対応するとともに、保護者に対して、園児への「気づき」を促す取り組みを継続して実施する。</p> <p>園児の発達や遊びの様子を把握し、キンダーカウンセラーと連携しながら、園児と保護者へ適切な対応ができる体制を整える。また、公的機関とも連携しながら、支援を要する園児の成長を促していく。</p>
地域・系列校との連携	<p>創立後培ってきた地域とのつながりを大切に、さらなる相互理解を深めるため、地域にも諸行事などを通して積極的に働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に留意し、大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携を図る。</p>
子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「認定こども園」への移行については、研修会への参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。</p>

6. 学校関係者よりの意見

<p>➤ 心情・意欲・態度を育てる教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 異年齢児とのかかわりが多く、上級生が下級生の世話をする心情や習慣が身に付いた。 ✓ 毎日、子どもが「楽しかった」と帰ってくるのが嬉しかった。 ✓ 子どもの個性を大切に、子ども自らが考えること及び互いに協力することの重要性を教えてくれた。 <p>➤ 充実した施設や環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 野菜や稲の栽培を行い、収穫まで子どもが行い、貴重な体験となった。 ✓ 食事の際に、いち早く透明の衝立を設置し、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めてくれた。 ✓ 自然環境豊かな園庭が整備されている。 ✓ 通園バスへのGPSシステムの導入や保護者との連絡用のアプリの導入など、ハー
--

ド、ソフトの両面で充実している。

➤ 教職員が一丸となった教育

- ✓ 教員一人一人が丁寧な保育を行っており、信頼できた。
- ✓ 教員の笑顔に保護者も助けられた。
- ✓ 学年や性別の分け隔てなく、愛情をもって子ども達に接し、子ども達のことを第一に考えている。
- ✓ クラスを超えて園児の様子を観察している。
- ✓ 教職員全体で子ども一人一人に寄り添った、きめ細やかな保育を常に展開している。

➤ 様々な体験を通して育つ教育

- ✓ 学期ごとに避難訓練（火災対応・地震対応・防犯対応等）を実施しており、園児に対し「自分の命は自分で守る」と園児個々に考えるように指導している。
- ✓ シュレッターのくずを再利用した「おにぎり制作」、子どもによる「劇の衣装の手作り」は、素晴らしいアイデアで良い経験である。

➤ 新型コロナウイルス感染症への取り組み

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について、保護者への説明を行い、理解も求めている。
- ✓ 消毒やソーシャルディスタンスの確保、飛沫感染の防止など新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に関して、子ども達に必要性などを話し、理解を深める努力を全教職員で行ってくれた。
- ✓ コロナ禍ではあるが、子ども達が楽しく過ごせるような創意工夫を常に感じた。また、子ども達の安全を最優先に考え、多くの経験をさせてくれた。
- ✓ コロナ禍ではあるが、避難訓練等も工夫しながら実施した。
- ✓ 工夫した運動会や動画の配信など、コロナ禍でも状況に応じて園生活が楽しめる工夫が見られた。
- ✓ 園庭、保育室とも新型コロナウイルス感染症への対策は充実していた。
- ✓ 世の中が不安で一杯な折に、心配することなく子どもを預けることができた。

➤ 検討すべき意見

- ✓ 送迎時における交通マナーの一層の遵守を保護者へ働きかけるべきである。
- ✓ 経験年数の少ない教員が多いため、研修や講習等への参加を増やしたり、ベテラン教員の指導等を充実させ、教育力の向上を図っていただきたい。
- ✓ 保育時間の延長と給食回数の増加を検討すべきである。
- ✓ コロナ禍であるので仕方ないが、保護者が登園できる機会を増やし、子どもの姿を見る機会を増やすべきである。また、来園の機会が少なくなっているため、保護者への連絡を今以上に密にすべきである。
- ✓ 登降園時、駐輪場が狭隘で混雑するため、混雑緩和の手法を検討すべきである。また、駐輪場への屋根の設置を検討すべきである。
- ✓ 大学附属の幼稚園なので、大学の施設を利用した行事等を増やすべきである。
- ✓ 日常生活におけるマナーなどは、もう少し厳しく指導していただきたい。

以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。